

<補足説明>

この度は、当社製品をお買い上げいただきありがとうございました。

◆回転計算尺のご使用方法

【各部の名称】

右図参照

※モデル・キャリバーにより、内装リング用りゅうずやその他部品及び表示位置が異なるものがあります。

【計算尺の原理】

$\log(A+B)=\log(A)+\log(B)$ という法則 (\log とは、10を底とする対数です。)を利用して、対数同士の「足し算もしくは引き算」により「掛け算もしくは割り算」の解を導く原理を採用しております。そのため、“10”という数字は計算尺の基本となり、単位指標と呼ばれています。本製品の回転計算尺では、10~99までのスケール取りとなっており、補助スケール取りは行っておりません。(整数2桁、小数点以下1桁)従いまして、計算数値および解に関してはスケール中に存在する数値に換算し、計算する必要があります。その場合、計算尺では前途の対数 “log” を基本としているため、10の倍数(… 1/100, 1/10, 1, 10, 100 …)での換算が必要となります。

1. 乗除算

回転計算尺では、一般的な計算のひとつである「掛け算」「割り算」も簡単に行えます。この場合の基本となるのは、前述の単位指標である固定スケールの“10”となります。

<例> 掛け算 “25×14” の値を求める。

固定スケールの単位指標“10”に可動スケール“14”を合わせます。このとき、固定スケールの“25”の、対向の位置にくる可動スケールには“35”という数字が表示されています。“25×14”の解は、3桁になることが予想できるため、35の10倍、つまり“350”が答えということになります。

